

令和4年度第2回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和5年2月2日（水）14：00～16：00
2. 開催場所 釜石市中妻地区生活応援センター 集会室
3. 出席者等 <出席委員13人>
藤原伸哉委員、藤井茉依委員、佐々木江利委員、松岡公浩委員、藤原けいと委員、
八幡雅子委員、八幡恭子委員、佐々木晴美委員、伊東公一委員、菊池利行委員、
福成菜穂子委員、黍原豊委員、佐藤奏子委員
<市側出席者>
釜石市副市長 晴山 真澄
釜石市保健福祉部長 小笠原 勝弘
釜石市保健福祉部子ども課長 千葉 裕美子
子ども課 主幹兼子ども福祉係長 樋岡 悦子
次世代育成係長 菊池 喜子
次世代育成係 主事 川原 澄玲
釜石市保健福祉部健康推進課 課長補佐兼母子保健係長 川原 瑞穂
釜石市建設部都市計画課 主幹兼管理係長 小笠原 太
課付補佐（都市計画担当） 佐藤 善広
釜石市教育委員会学校教育課 指導係 指導主事 吉田 亜矢子
4. 経 過
 - (1) 開 会
千葉課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。
 - (2) 委員長挨拶
今日はかなり盛りだくさんの内容になっておりますので、フリートークで構わないので、腹の中を出すという感じでご意見をよろしく願いいたします。
 - (3) 議 事
 - ①特定教育・保育施設の利用定員の変更について
議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。
 - ②第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 中間年の見直しの検討について
議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。
 - ③第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトに伴うアンケート調査の実施結果について
議事について、事前に配布した資料に基づき事務局から説明をした。アンケート結果について、委員から建設的な意見をたくさんいただいた。時間がなく、遊び場等に関するアンケート結果に対してはあまり意見をもらうことができなかったが、議事については承認された。
 - (4) その他
・次回会議日程についての説明（5月頃を予定）
 - (5) 閉 会

○主な議事での発言は以下のとおり

(1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について

意見なし

(2) 第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 中間年の見直しの検討について

伊東委員長：かなり乖離があるけどもその要因は一時的なものも含めて、いろいろ多岐にわたっているということで、今年度、来年度まで、様子見ましようということでもよろしいですか。

事務局：この中間年の今の時点で、サービス量が確保できているという状況にあるので、数字だけを現実に合わせて下げても、それだけの意味がないというところがありますので、その全体の将来見通しの部分はこの2年間の状況見ながら6年度中には策定するという考え方。次回の計画策定時に見直したい。

菊池委員：10%以上の乖離があるということでは書かれているが、10%の根拠はなんですか。

事務局：国から示されている基準。待機児童がいれば見直しをどんどんかけていかなきゃいけないと思うが、今は待機児童がおらず、施設の方が逆に、園児を欲しい状況になっているので、無理に調整する必要はないかなと思う。

(3) 第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトに伴うアンケート調査の実施結果について

藤原伸哉委員：最初の話題に上がったのがまず子どもの出生数の減少。市にとっても大きい課題。やはり有効にお金は使われるべきと思うところがあって、維持管理にかけている費用について、使われない公園に投入するべきなのか。本当に魅力のある公園だったら車ででも行くんだらうから、整理されていく部分も必要だと思う。

あとは町内会の人たちとお話ししても、町内会で管理していくのもだんだんと大変だっという声も聞いていたりする。そういう意味でもやはり数というよりは質だろうし、その活用の仕方が大事なポイントだと思う。

藤井委員：遊び場について、昨年、鈴子広場が新しくなり、利用者もすごく多いなどを感じている。やはりコロナの影響で遊び場に遊びに行ってもなかなか人に会えないですとか、近所の少子化が影響しているのか、近所で遊ぶということもなかなか少ないので、鈴子広場に行けば、色々な方に会えたり、子どものお友達がいたりとかで、助かっているなど感じている。

あとは市営プールに関して、今はおむつが外れていない子はいれない。その辺をもう少し充実させていていただきたい。夏にプールに入りに行っても、子どもがいなくて貸し切り状態だったり、市全体の子ども数も少ないと思うんですけど、もっと集まってもいいのかなと思う。イベントや市営プールが無料の期間、そういった情報を大勢の方に知ってもらえるツールを使って、すぐに皆さんが知れるようになったらいいなと感じた。

佐々木江利委員：アンケートの「釜石市は安心して子育てしやすいまちだと思いますか」に対して、本当は「思う」という人が、もっと多いと個人的に思う。ただ、ここの産婦人科とか小児科っていうのを考えないわけにはいかないって意味で、やっぱり「どちらともいえない」って言う方はいるんじゃないか。自分自身の周りの方は、地域の方もとても親切で、支援センター

の方も親切ですし、育てやすいなって感じていると思います。

小児科に関して救急医療という面に対しての不安も絶対捨ててはいけない部分だなと考えます。オンラインとかで、小児全般じゃなくても、耳鼻科とか広く知識を持った専門の医師に診てもらえるのもあったらいいなと。そういったことを考えるとどちらとも言えないという回答になったのかなと個人的には感じました。

「釜石の好きな場所はどこですか」という問いに「イオンタウン釜石」が1位というのは、個人的には、すごいショックでした。釜石は自然豊かな場所。できるだけ自然の中で育てたいなと思っているので、私の土日の目標は「イオンタウンに行かない」です。釜石はすごく素敵な場所だと思います。赤ちゃん連れに優しいし、何か皆でイオンタウン以外で遊ぶようにしていけたらいいなって思います。釜石は、子どもというよりは、子どもを育てる親にとっていい場所と感じています。

松岡委員： この釜石は、「子どもを産み育てる」というテーマではなかなか非常に厳しい状況になっているのかなと思う。そういった部分を、行政の皆さん、或いは会議の委員の皆さんが協力して、早い段階でどのぐらい、今よりも良い方向にもっていけるのかなと。ずっとここ何年かそう言われてはいますが、何とか釜石で産み育てる環境がよい方向にいけばという思いに尽きる。

藤原けいと委員： 今年度は、例えばかまいしこども園子育て支援センターに行きづらい親御さんとか、そういう人たちのためにこっちから地域に出ていって、子育て支援ができる方法を探っていこうじゃないかというところを今検討している。

イオンには行けるけども、子育て支援センターには行けないっていう保護者とか、人と触れ合うのが苦手けども離れたところからだったらちょっとは関わるといって保護者にも関わられる子育て支援をしていきたいなと今検討しているところです。

あと佐々木江利委員の、土日にイオンに行かないという話に感動しました。すごく嬉しいです。

公園整備の件でも、前の会議でもこんなに釜石に公園があるんだって数にちょっとびっくりしたが、いろんな意見があってこれが本当に生の声だと思う。その次、どうしていくのか。整備も必要だし、無くしていくのも必要だしっていうのはすごく感じたところ。

八幡雅子委員： 釜石で出産ができなくなるという時から、釜石の子どもはどんどん少なくなっていくんじゃないかという心配を抱いていましたが、大船渡まで行ってお産するのは、妊婦さんにとっては大変だなとっております。やっぱり釜石で産んで育てることができればいい。

釜石で育て、大学などに行ってまた戻ってきて、釜石で働いて、そして釜石で結婚して、ここで子育てをしていけるっていうような、その流れができれば一番いいんですけども、なかなかそれが厳しい若者たちがいるんじゃないかなとっております。

あと、その経済的なところ、例えば大槌町さんとか山田町さんとかは未満児さんは保育料が無料だと初めて知った。やはり未満児の保育料も若い子育て中の保護者さんにとっては、負担になっているところもあるのかなと思いました。

あと男性のトイレに行ったことがないので、そこにおむつ交換台がないということが、よくわかってなかった。今の若いお父さんたちは子育てに協力的だと思いますので、男性

のトイレにもおむつ交換台があれば、母と役割分担して、おむつ交換ができるとかそういうことにも繋がるんだなと思いました。

八幡恭子委員： このアンケートを見て、いろんな情報を得るのに、広報がやっぱり 1 番見られているという結果に関して、古いようだけれども一番身近なツールなのかなっていうのを感じました。

あと子どもたちが遊ぶ公園について、アンケートの中でもありましたけれど、やっぱり近所の公園に行って気になるのが鹿のフン。小さい子どもを連れて歩くのにフンのあるところには連れていけない。遊ばせたいと思っても避けてしまっただけ散歩だけになってしまったりとか、そういうのは常に感じる場所がある。あのフンを何とかできないのかな。どうしようもない思いながらも、すごく悩ましいなと思って、散歩させているような状況です。

先ほどイオンにいっぱい子どもたちが行くっていうのもあったが、毎週月曜日に子どもたちに「お休みの日何してたの？」って聞くと、ほぼ 8 割 9 割が「イオンに行った」という。自然に触れる場所に行くお子さんが減ってきている。多分それって親の考え方の影響だと思う。イオンに連れていけば楽し、簡単だし。夏だったら海に行ったっていうお子さんもいますけど、10 人子どもがいたとしても海に行ったっていうのは 1 人か 2 人。

雨の日ももうどこにも行かないで、おうちの中でおままごとしたとか、絵本を読んでいたりとかブロックしたっていうお子さんもいて、そういうときは親からは、かえって土日の方が疲れるという声も結構聞かれます。雨の日も遊べる施設があればいいのかと思うことも結構あります。なかなか難しいと思いますけれども、イオンじゃなくてそういう施設の方が子どもたちものびのびと遊べる。

あと男子トイレにおむつ替えの場がないっていう声があったのを聞いて、今のお父さんたちってすごいなあとと思った。自分の世代はちょっとでもおしめを汚したら、お父さんは「取り替えろ！」と言うような風潮だったのに、今のお父さんたちは子どもを外に連れてった時はちゃんと取りかえてくれるというのがすごく羨ましい。アンケートの声から、今は子育てに参加するお父さんが多くなっているのを実感しました。

佐々木晴美委員： 「雨の日でも遊べる屋内の施設が欲しい」という意見がありましたが、児童館は学童保育も併設しているので、長期休み期間は朝から子どもたちが、元気に遊んだり、騒いだりけんかしたりしているんですけど、普段学校のある日は、15 時頃までは職員のみで空いているスペースがある。そこで、遊びに来れる場所として、保育園さんとかこども園さんの年長さんが児童館に遊びに来るなど、そのような形でも開放できるのではという話題になりました。また、主任の先生全員が集まった会議の中で、この中身を還元できたのも良かった。

菊池委員： 今回アンケートがこれだけ集まったってことは非常に子どもたちも親も含め、関心高いことなんだなと思うので、ぜひ活かして欲しいなと思います。

親子で楽しめる場所があればすごくいいですし、子どもたちだけで楽しめる場所もあればいいなと思いますし、公園っていうのはそういう要素もあると思います。公園に行ってゲームしている子どもたちもいるけれども、やはりみんなで遊ぶ場所っていうのは必要。

ただ、あの当時も駐車場がないとか、犬のフンが多いとかそういうことも思ったが、今は

鹿のフンが結構多いと。やっぱり安全衛生面の整備が必要で、そこを維持するためには、市だけでは大変だと思います。学区の中に、PTA含めて地域の人たちの繋がりのある組織もあるはずなので、学校の行事や学校の夏休み冬休みの行事とリンクしながら、公園をどのようにしていくかということを経験の中で話題にすることも必要だと思う。

連合の方では、夏休みとか根浜海岸のオープン時とかいろいろ子どもたちが楽しく遊べる場所に協力して、各種団体でいろんなイベントをやっている。それを市のいろんなツールを利用して、広報活動をもっと行うことで、選択肢をさらに広められると思う。

公園についても、近くにある公園っていうのは子どもたちの遊び場でありますけども、親子で一緒に遊ぶのなら、近隣の公園使っても市外の公園使ってもどちらでもいいんじゃないのかなど。なので、市外の公園はこんなところありますよ、釜石にはこんなところありますよといった形で広報すると、選択の自由になるのでは。

プラスで、先ほど放課後の子どもたちの過ごし方って話もあったが、特別の支援が必要なお子さんは、なかなかそういう施設を利用するのが難しい子がいっぱいいる。そういう子どもたちが放課後すぐに対応できる施設とか、あるいは土日でもハンディがある子どもたちを受け入れるような環境とか、釜石でもぜひそういうところをもっと充実すればいいと思う。

ぜひ、いろんな形でこのアンケートが活かされればいいと思っております。

黍原委員： たくさんいろんな意見がアンケートで出ているが、ハードからソフトへ思考を変えていかなくちゃいけないかなと思った。これまで公園の整備を含めていろいろされてきたけども、遊ぶ場所がないとか、やっぱり伝わってないんだなっていうところがいっぱいあって、先ほどの藤原委員の話とも重複するけれど、ハードをどう活用していくかとか、そういう場所もあるんだと知ってもらって、まずそこじゃないかと感じた。

明石市の話もあったが、全体の人口が減ってくる中で、全体の中での予算をどこまで子育てや、子どもたちに割けるか、ぜひチャレンジというか、検討いただきたい。

限られた予算の中でどうするかっていうところを考えると、そこまでハードにはお金かけられないんじゃないか。今ある資源を、ハードをどう活用するか知恵を絞っていったらいいんじゃないかと全体通して感じた。全部には取り組めないけどどこかに突破口みたいなところがあるというか、これやったらいろんなものが紐づいて動いていくんじゃないかなっていうところを、ぜひこの子ども・子育て会議含めて皆さんでアイデアを出せたらいい。

この意見を見てもわかるが、イベント情報がなかなか届いてない。一昨年、子ども課の事業で、自然遊び場事業補助金を始めていただいて、そういったものも例えば、ホームページとか、LINEでも周知するとかそれ以外でも地域だったり小さな団体とかでも、いろんな子どもに関わるイベントをやったりするので、そういったものを集約して届けていくと伝わるのでは。

あと、イオンはどこでもあるので、好きな場所がイオンが1番だと全然釜石じゃなくてもいいよねって話になっちゃう。そう考えると核家族化も進んでるし、イオンにはおそらく個々で行ってるだけで、誰かと一緒に何かするってわけじゃないと思う。イオンに行っても他の遊びの中で、皆で何かするとかじゃないと釜石で孤立した子育てになってしまうんじゃないか。

プロジェクト 3 で出てくる虐待とか、ひとり親のこともありましたけど、うちの事業所は発達に課題があったり、障がいのある子たちが利用しているが、ひとり親家庭の割合が 3 割ぐらい。全部が全部じゃないが、いろいろ見ていると、経験や生活体験が少ない。そういう人たちに届くと、子どもの育ちとかに関わってくるんじゃないかなと思いました。文科省は去年、一昨年調査でも、経済状況に関わらず、体験により子ども達の自尊心が育まれると言われている。

ソフトを充実させて釜石で子育てするのが楽しいなという人が増えていくと、なかなか届かない層も楽しいと聞くと参加してみたくなったりとかするんじゃないか。

その中でも、佐々木晴美委員のお話にもあったが、児童館で登録している子たちだけじゃなくて、もっと地域に開いていくような取り組みもできるだろうし、雨の日の活用も本当にその通りだと思う。ぜひアイデアを出し合っていってほしい。

あと就学以上の子どもをどう捉えるか。教育のところの不安とか出てますし、子育て支援センターを就園しても使いたいとか、その辺りの課題とか意見とか、どう広げるのかというのはぜひご検討いただきたい。

佐藤委員： 「釜石の好きな場所はどこですか」という質問に対し 1 位が「イオンタウン」、2 位と 3 位が「海」とある。「市内で遊ぶ場所はどこですか」という問いに対して「海」という回答は入ってない。震災もありながらも、子どもたちの心にこうして海の風景だったり何らかの体験だったり、夏の思い出なのか、そういった風景が刻まれているというところに、非常に釜石らしさが出て素晴らしいなと思った。

私たちは自然の中の遊び場を主にやっていますが、ワクワクしながら市のホームページを見るっていう感じではない。広報かまいしが大好きで見ているんですけど、オンタイムで上がってくる情報とかお母さん方の声でこうしてみようかっていうようなちょっとした催しのように、前から決まるものじゃないものも結構あるものですから、広報かまいしには載せられない。釜石市ホームページと LINE のツールを「あまり見ない」、「見ない」が多いのはもったいないかなと思いました。このツールは困ったら見るところでもありますし、自分たちの手が届く範囲外に世界を広げていく場所になるんじゃないかなと思う。この辺の整理が進むといいのかなと思いました。

福成副委員長： 書く側もなんですけども、自分の要望だけ言ったらきりがないけど、楽しみ方を自分で見つけたり、自分が一歩動くことで、地域の人と関わったり、釜石の自然であったり、喜びを伝えてく努力を私もしてかなきゃいけないんじゃないかなと思いました。

一番本当にショックで、どうしようもないのがこの子どもたちの人口推移。それを今から懸念しながら、釜石でどれだけ子どもたちをいっぱい産んで子育てを楽しみながら釜石で人口を増やしていけるかっていうことは、ものすごく大きな課題。いつも言っているように子育て支援は、子育てするお父さん、お母さんに対しての支援をもっともっと取り組んでいかないといけない。子どもを産まないっていう選択をやむを得なくするような、産みたくても産めない町になってしまっちはいけないと日々思いつつも、こうやって現実に数字を突きつけられるとやっぱり産めない町になっているんだなっていう葛藤があります。

ファミリー・サポート・センターの事業で、時給 900 円で働いているお母さんが、500 円

で預けて、それでも 400 円、1 時間の収入を得ても、働かなきゃないっていう現実を私たちは考えなければいけない。気分転換に子育てからちょっと開放されたいから 1 回 1 時間預けましょうっていうのと違う。預けている費用の方が得るお金より多いんです。

私は明石市の画期的な変化については勉強不足でよくわかってないのですが、何かをきっかけに大きな一歩を踏まないと、釜石の子どもたちが増えるっていうことはちょっと難しい時代に入っている。

今の若いお父さんお母さんは、子育てをしながら働かなきゃない現状の中で子育てしていて、2 人で働いて約 1 人分の若い人達の収入を得るとすると、1 人が休んで出産をするっていうことは、その時点で生活がもう不安な状態になります。そこで産む、産まない、の選択もしなきゃいけないし、その産んだ後の支援も、市は頑張ってると思いますが、転勤で釜石に来た人が子どもを連れて子育て支援センターに知らない人と出会えたという良い面と、駄目な部分の落差を埋めてくのにこれから努力していかなきゃないと思います。

お金の問題ではないと思うんですけども、働いているお母さんたち、お父さんたち、パートで働くともっと働きたいんだけど、扶養の範囲内という税金のことを考えて働けないっていうことをよくおっしゃる。子育てするためにはもっとお金も必要なのに、税金とか高かったりで、あまり働けないっていう悩みはもう何十年も抱えてるわけですよ。そんな中で、国は、県は市はどういうふうに、子育てを支援していくのかっていうのは、何十年も全然変わってない。この辺も考えていただきたいなっていうのはどこに言ったらいいいのかわかりませんが。

高齢者としては、若者を支援していくためにみんなの理解とアイデアを出し合って、本当にいいことがあったら取り入れながら、子育てを楽しんで欲しいなと思いました。

伊東委員長： 藤原委員の意見にもあったが、公園も、数ではなくて質、私もそう思う。行政としてどうのこうのっていうことが言いたいんじゃないで、これからも一緒にいろいろ企画できるようにしていったらどうか。例えば、広報にアンケート結果を載せるだけじゃなくて、1 面大々的に大特集をしてみるとか。子育てアンケート特集の前段で、何ヶ月か前から釜石の子育てを考えるみたいなのを出したりとか。

いろんな会議に前から出てよく思うが、ここに集まっている方々はごく少数の代表者の方々。いろんなところからいろんな意見があって、それをいろいろ吸い上げていった方が、より良いものがいっぱいできてくると思う。だから、そのような一緒に企画する機会をいろいろ増やしていったらどうか。本気でそのアンケート見たんだよ的な反応が、アンケートに答えてくれた方々には必要なんじゃないのか。アンケートに回答して、それがどう届いたか、どうなっていくのかっていうことが大事。

藤原伸哉委員： 生活困窮の質問が無かった。やっぱり話題になるように、共働き世帯も、片親の世帯も仕事は休めない。生活困窮に陥る理由に何があるのかとったりするので、次回以降のアンケートの際に生活困窮の部分が質問項目にあってもいい。

遊び場アンケートの中で子どもたち自身が年齢が上がってくると遊び場としての公園っていう見方がなくなってくる。そうすると子ども自体が少なくなってくるっていうことはそのニーズが減るっていうことだと思うので、やっぱりそういう意味では、無くせっていうこと

ではなく、残し方を考えていく機会になればなと思った。

あと自分は障がい児向けの事業所の仕事をやっているが、市内の支援学級のお子さん達が増えてきている。そうすると、学校が終わりの時間はみんな大体同じで、支援学級の子を迎えに行く時間も一緒なので、学童での待機時間が必要になってくる。そうするとご家庭によっては学童を10分でも20分でも使うために、月額のコストを払っている家庭もあったりする。放課後等デイサービスを利用している時点で自己負担が発生しているのだから、二重に負担している部分がいづらか緩和されるといい。ご検討いただきたい。

黍原委員：不安や悩みに関する質問に対する記載を見ていて、本当に身につまされる思い。全国的に不登校の数が増えてきたという話題があると思います。遊び場が、自分の家や学校しかない、つらいことがあると家に引きこもるんじゃないかということもあって、やっぱりそれ以外の居場所も必要なんじゃないかなと思う。

実際、釜石の市内不登校の割合がどういう推移になっているか知りたいので、もし数値があればお答えいただきたい。全国的に増えているけれど、それに対し釜石はどうか。

事務局：詳しい数値は今ないが、小学校・中学校合計で約40人ということは聞いている。